勘定山
井地山
勘定山
セジロウ分岐
大礫の平
お椀を伏せた山容
至 みやび山
西熊林道より勘定山方面
白髪山を最高点に物部川本流と上韮生川に挟まれて大栃まで続く稜線のほぼ中央部に位置する勘定山～井地山。奥深くかつ急峻な地形のため頂稜部は人手が加わることもほとんどなく、原生的な様相をとどめたブナを主体とした天然林が残っている。アップダウンはあるものの、なだらかな広い稜線上は人の踏み跡もほとんどなく、とても静かな時が流れる。北側は綱附森～三嶺が木々の間から見え、南側は安芸境の山並みが続く。さらに西には大礫の平から高度を下げながら大栃まで長い尾根が伸びている。
井地山
1.465m
ブナの森にはたくさんの動植物が生きている。無数の落ち葉は豊かな腐葉土となり、実は動物や虫たちの食糧になる。あらゆる命がブナによって支えられている。
急坂
ブナ大木 これでブナ!!
くぼ地
急
ブナ. スズタケ枯
半世紀以上の昔、奈蔵山の木は高井に向けて架線を張って材を飛ばして搬出していたという。
沼井まで
道不明瞭
わさび田跡
沼井へ
昭和の終わりから平成の初めまで岡の内担当区の主任をしていた中山博道さんによると、その頃、ケヤキだけを伐倒にヘリコプター集材で搬出した歴史がある。大きな材木を持って収穫調査に従事していた。
綱附森よく見える
ほとんど手つかずの自然林の広い尾根にはブナをはじめ立派な大樹やかわいい稚樹まで多様な森の姿を見せてくれる。
訪れた4月初旬、樹々たちはかじかみ、凍える冬を耐え冬を越しそして季節の約束は今、めぐりて春のふくよかな風にゆれていた。
平家の岩屋の上にはマンガン鉱があり4～5年にわたってマンガンを採掘していた。
太いワイヤーを張って中継の"駅"では人が荷を掛け替えて岡の内まで4本も5本も架線を張って搬出をしていた。
今でも山中にワイヤーが残されていた。
古い大きい切り株
又助佐古
セジロウ分岐は国有林境界
コル
イタドリ
S44.5. 勘定山46林班で50キロ位のメス熊が捕獲され高知市高知県動物園にお嫁入りしたことがあった（林友518号）
勘定山
1334m
天狗の遊び場？といわれる広い尾根
沖ケ平
ピークが南側にも見える
上韮生と槙山との分水嶺
なだらかで広い尾根
の道しるべあり
弓木山
ブナの天然林
大岩
谷は荒れている 渡渉をくりかえす
勘定山は「カンジャが森」と呼ばれ、久保と別役の境にあり、遠く山田、香北よりも望み見ることのできる高山で冬ともなれば白く雪をかぶり高くそびえて良く見える。
この森に登るには久保沼井、別役の津々呂、セジロの三つの道がある。
カンジャが森は広く広葉樹が生い繁り余程地の利に詳しい人でなければ元の所に戻れないといわれている。
山中に天狗岩と呼ばれる大岩がありその上には落葉一つもない「天狗の遊び場」あり。大岩の天辺から百尾の堀田まで天狗が往復していたという。
「ふるさと一人旅」より
至 大栃
大礫の平
1.270m
人工林
飯場跡
マンガン採掘跡・搬出のワイヤー残る
奈蔵山
1264m
（三角点）
危
超危険
お助けロープ
岩棚
落ちたらまず助からない
注）道はない
横道
注）道はない
深谷
手つかずの天然林
セジロウ谷の道は相当に険阻で危険
岩粋の斜面 ガラガラ 落石注意.
スギ林
石で足指をつめる。
水源
柚子畑
平家の岩屋
鎖場
不動堂
渡渉 黒タンク
文治元年（1185）源平の戦に敗れ平資盛（清盛の孫）一行が隠れ住んだといわれる。
壮大な石灰岩壁の下にあり、岩屋は石礫に埋まりつつある。
落石が多く登っていくと石が降ってくるような場所だ。
岩屋の中には太鼓の残がいがあった。
昔は「名谷の岩屋」と呼ばれていた。
百尾
瀬次郎
勘定山はかんじゃが森 冥上山と記す資料もある。
小松神社方面へ
津々呂
下から見上げる勘定山はいつも遠かった
冠者ヶ森？とも想像してしまう。
至 別府
西谷の道と合流
平家の岩屋 標識（古い）
岩屋の周りにヒトリシズカが群生していた。
ヒトリシズカの名前の由来は平家を滅ぼした源義経が愛した静御前が吉野の山でたった一人で舞を踊る姿ともいわれる。
今は平家も源氏もない 平和な日本だよと伝えたくなるかわいい花だ。
黒パイプ
蛇口
山の中を往還が通り阿波へも赤岡から塩が運ばれていた。
195
195号線ができたのは昭和40年代。
藤の花が美しく咲く
令和4年4月 岡の内 西谷において平家の末裔であられる寛さんに出会う。
平家の岩屋のある方向を指示して、「わしの先祖は800年前、どこからどうやって来たか知らんがあそこで暮らしよって、ここに下りてきた」とのことで、代々西谷の地で営みを続けている。
平家の岩屋へのルートや昔の暮らしを淡々と話してくれた。
西谷
横道
アカマツ
田
民家
オリ
中内
見晴らしが良い
別役
平家の岩屋へ行く道だけでなく山道は今はもう行く人もいなくなりすっかり廃れてしもうた。
昔は毎日人が通り、道も光って見えた。
江戸時代は別役村 1889年に槙山村 1956年 物部村別役となる。
古くは大忍郷
大正時代に森林軌道が敷設され別府から山崎まで木材が搬出されていた。
別府－岡ノ内は物部川左岸を通っていた
石垣を築き土地を拓いて家を建て田畑をつくった。棚田が広がっている。
住友の鉄塔350m
岡の内
石垣風景
至 大栃
落合－杉熊口
成山
沖ノ谷口
コウジ谷口
日の出橋
川口発電所
森林軌道の橋脚跡
住友共電はS30.12月に別府 落合 杉熊、岡ノ内の堰堤築造をはじめ川口発電所はS32.11月に竣工した。
桑ノ川
道が通っているスギの山も昔はリンチョウ（ミツマタ）を植えていた。今でも山の中に入ったらリンチョウがどっさり生えている。スギはもともと西谷にあった木ではなく、元からあって生えている木はスギやヒノキではなく広葉樹やモミ・マツなどが昔から地元にある木よ。
昔、学校を出たばかりの若い頃、この上（西谷）の上の飯場で泊まって仕事をしていた。布団から鍋から、何から何まで"担ぎ"上げていた。えらいもんだった。
安芸の人の持ち山だったが、スズタケを刈って地拵えをして植林をしていた。
食べ物は米、みそ、じゃこ、缶詰など。
谷のそばで水のあるところに飯場があり いちばん若かったので"かしき"をやりよった。
4・5人で泊まり仕事をしていた。
若かったのでできた仕事だった。
山行データ
2022.4.8
18.9km
10:22
最低350m 最高1.465m
NO.124
2022.6.21
夏至